

- などと声を掛け続ける。
- 濡れていれば着替えの確保，寒ければ保温具の確保，食事・食糧などの支援が来た場合には，優先して子どもたちに回るように避難所の運営者や周囲の大人にも声を掛ける。
 - 親とはぐれている子どもの数や状況などを，避難所の責任者に報告する。
 - 外部と連絡が可能になり，交通の安全が確保された場合に肉親や保護者と会えるように手配する（逆に，心配だから，心細いからという理由で，安全が確認できていない自宅方面などにむやみに行かせない）。
 - 可能なら，はぐれている子どもの名前や状況を避難所の入り口などに掲示する。
 - 肉親や保護者に引き渡すときには，誰にいつ引き渡したか，記録する（両親や親族などがそれぞれ迎えにくる可能性がある。誰が引き取ったかわからないと，新たな混乱が発生することになる）。
 - 日時が経過しても，迎えにくる親族がいない場合には，行政などに積極的に働きかけ，両親や親族の消息を尋ねる，引き取れる親族を探すなどの手配が必要。

6 排泄困難者

1. 定期導尿している排尿困難者への対応

カテーテルの予備がない場合には，水分摂取を減らすな

どしている場合もあるので、注意が必要。カテーテルの予備がない場合は、現在あるものをアルコール消毒し救済物資が届くまで使用する。

【ハイリスク】

前立腺肥大／神経因性膀胱／膀胱腫瘍

2. 排便困難者への対応

環境要因と、身体要因がある。原因をアセスメントして支援する。

【排便困難の理由】

- 環境要因：トイレの不備、洋式トイレの不足、トイレまでの移動困難。
- 身体要因：便秘症、水分摂取の不足、食物繊維の不足、摂取食物そのものの不足、大腸・直腸疾患、ストーマ。

【東日本大震災で実際に起こったこと】

Column

神経因性膀胱のため排尿困難で毎日自己導尿していた被災者が、自己導尿のディスポのカテーテルを1本だけ持って避難し、自宅は流されてしまった。救済が来るまで、1本しかカテーテルがなく、極端に水分摂取を減らしていた。カテーテルの消毒を度数の高いアルコール飲料で行い、導尿を繰り返し、水分も摂るようにしてもらった。